

# I. 調査要領

## 1. 調査時点及び調査対象期間

(1)調査時点 平成 28 年 1 月 1 日

(2)調査対象期間 平成 27 年 10 月～12 月期の実績および平成 28 年 1 月～3 月期の見通しについて調査した。

## 2. 調査対象

当所会員企業を対象に、商業+食品業部会、水産業部会、機械工業部会、建設業部会、観光・サービス業+諸業部会より各 30 社、計 150 社を抽出し郵送により調査した。

## 3. 回収状況

	対象企業数	回答企業数	回 答 率
商業+食品業部会	30 社	17 社	56.7%
水産業部会	30 社	15 社	50.0%
機械工業部会	30 社	12 社	40.0%
建設業部会	30 社	17 社	56.7%
観光・サービス業+諸業部会	30 社	15 社	50.0%
合 計	150 社	76 件	50.7%

注) 本調査結果の中で、「D・I」値とある記号は、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目についての増加（好転・上昇）企業割合から減少（悪化・低下）企業割合を差し引いた値（景気動向指数）を示す。

## Ⅱ. 概況

—業況は僅かに悪化。次期はDI値▲47まで大幅悪化の見込み—

### 1. 全体の動き(業況)

四半期毎に実施している中小企業景況調査の**今期(平成27年10月～12月)の全業種平均DI値**(「好転」と答えた企業と「悪化」と答えた企業の割合の差)は、**前年同期比で▲19.7**と前回調査時の▲16.5より**僅かに3.2ポイントの悪化**となりました。前回調査時の見通しは▲22.0だったことから、悪化が僅かながら抑制されました。

部会別で前年同期比ベースをみると、商業・食品業[前年DI値▲16.7→今期**5.9**]、水産業[前年DI値▲57.9→今期**▲46.7**]、機械工業[前年DI値▲30.8→今期**▲33.3**]、建設業[前年DI値10.0→今期**▲11.8**]、観光・サービス・諸業[前年DI値20.0→今期**▲20.0**]となりました。

今回の調査で唯一、前年に比べ回復したのは商業・食品業で、年末商戦やもんべつ地域活性化商品券の使用期限が11月末であったことから、最後の駆け込み使用もあったものと思われます。その一方で、最も大幅な悪化となったのは水産業で、近年原材料不足に悩まされていましたが、依然としてカニの輸入が落ち込んでいること、26年の低気圧の影響によりホタテが壊滅的な被害を受けたことにより、原料不足と価格高騰の影響が大きな要因と考えられます。また、観光サービス業・諸業も大きな悪化幅となっており、旅客運送や生活関連産業での悪化が要因となっています。

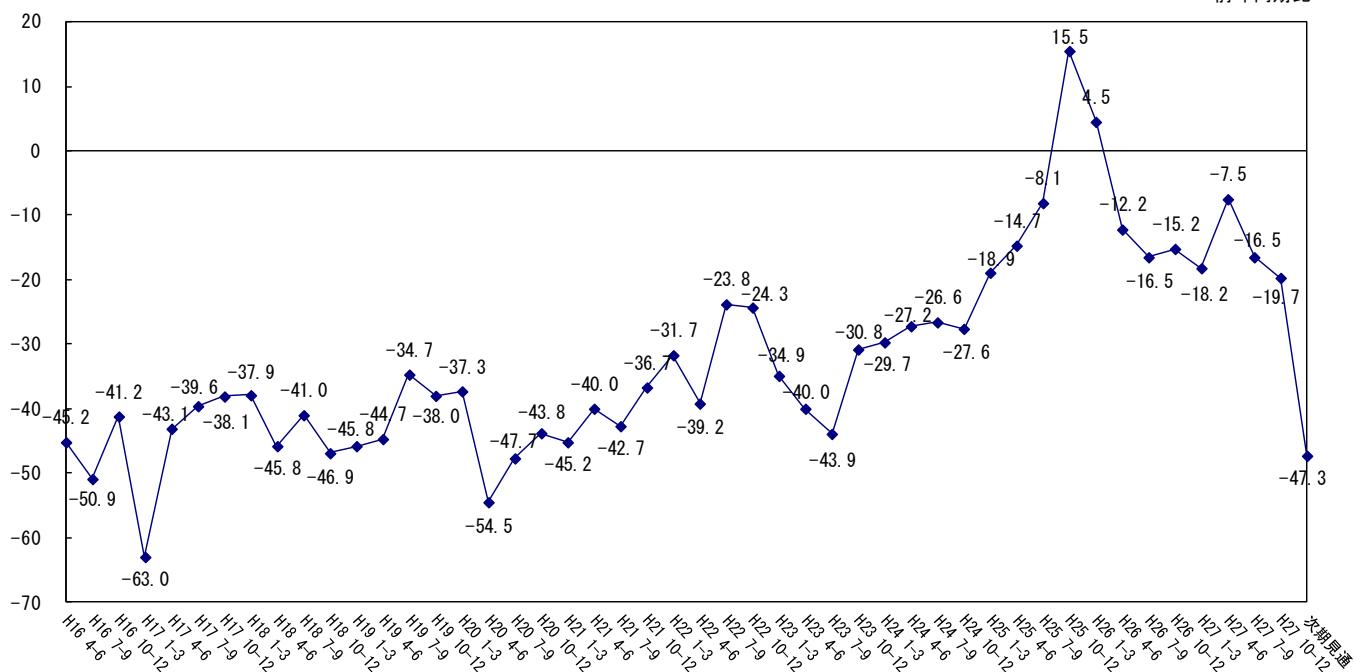
**次期(平成28年1月～3月)**については、全体では今期と比べて**業況判断DIが27.6ポイント大きく悪化(次期見通し▲47.3)**するとの予測となっており、DI値が▲50に迫る大変厳しい見通しとなりました。最盛期を終えた水産業と建設業がDI値▲60を超える見方が強まっており、これまでになく厳しい期間に突入するものと思われます。

これらの状況を踏まえ、当所では国や道の補助金、各融資制度のセミナーの他、これから始まる確定申告での決算内容も分析し、経営相談等対応を図っていきたいと思っております。

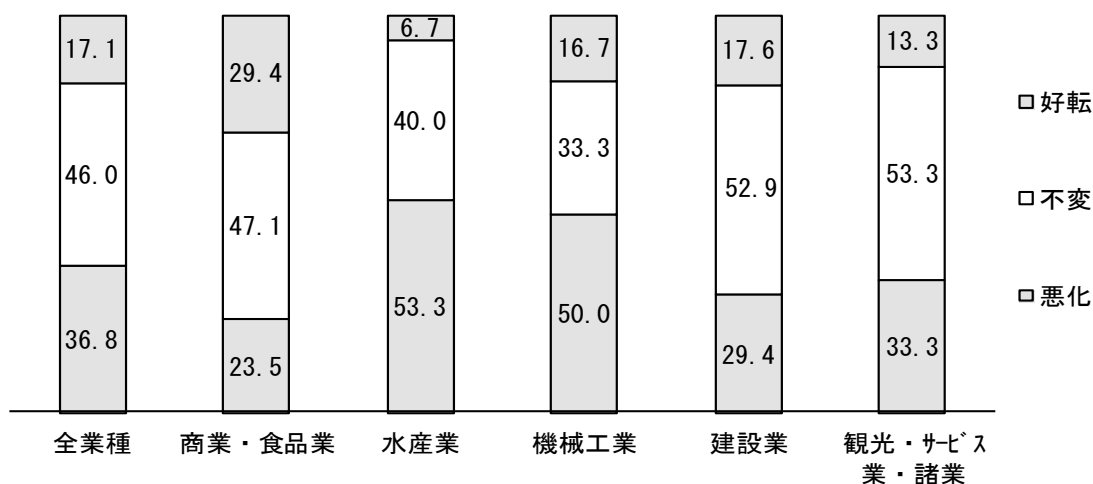
### 紋別商工会議所 景気動向調査(業況の推移)

(好転—悪化)

前年同期比



### 今期の業況（前年同期比）



全業種の経営上の問題点としては、「材料等の仕入単価の上昇」「需要の停滞」「施設・設備の老朽化」を訴える声が多く寄せられております。

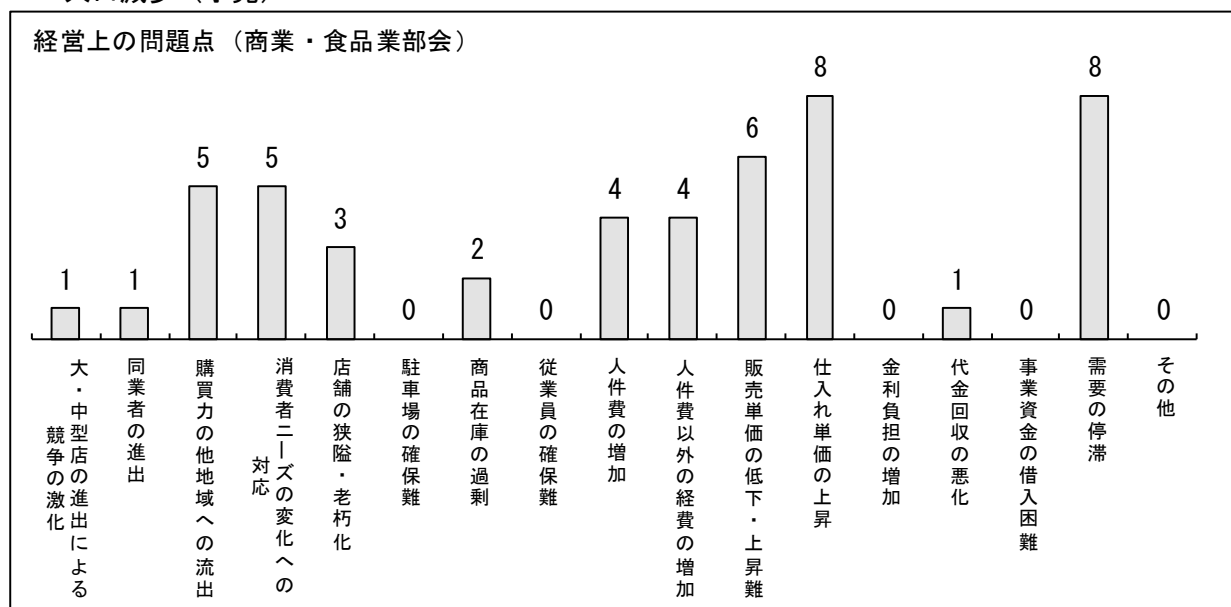
### ■部会別の動向

**【商業・食品業部会】** [業況判断DI値（前年同期比）**5.9**（前年DI値▲16.7、来期見通し▲23.5）]

業況DI値（前年同期比）は、前年同期と比べ22.6ポイントの改善となりました。11月末で使用期限となった地域活性化商品券の最後の駆け込み使用や年末の需要やバイオマス発電所の工事関係者等、市外の人々の消費活動により市場が活発になったものと思われます。昨年は12月の猛吹雪の影響で物流が止まった事により、仕入れが出来ず大きな打撃を受けた所も多くみられましたが、今期は年末まで雪も少なく穏やかに過ぎ部会全体を通して混乱も無かった事から、前年同期と比べ大きな改善に繋がったものと思われます。次期見通しは再び大きく悪化する予想となっております。経営上の問題点としては「仕入単価の上昇」「需要の停滞」を訴える声が多くなっております。

#### 《業界の問題点等》

- ・客数の減少、ネットでの購入（小売）
- ・ネット通販への流出（小売）
- ・同業他社との競合によるマージンの低下。（小売）
- ・人口減少（小売）

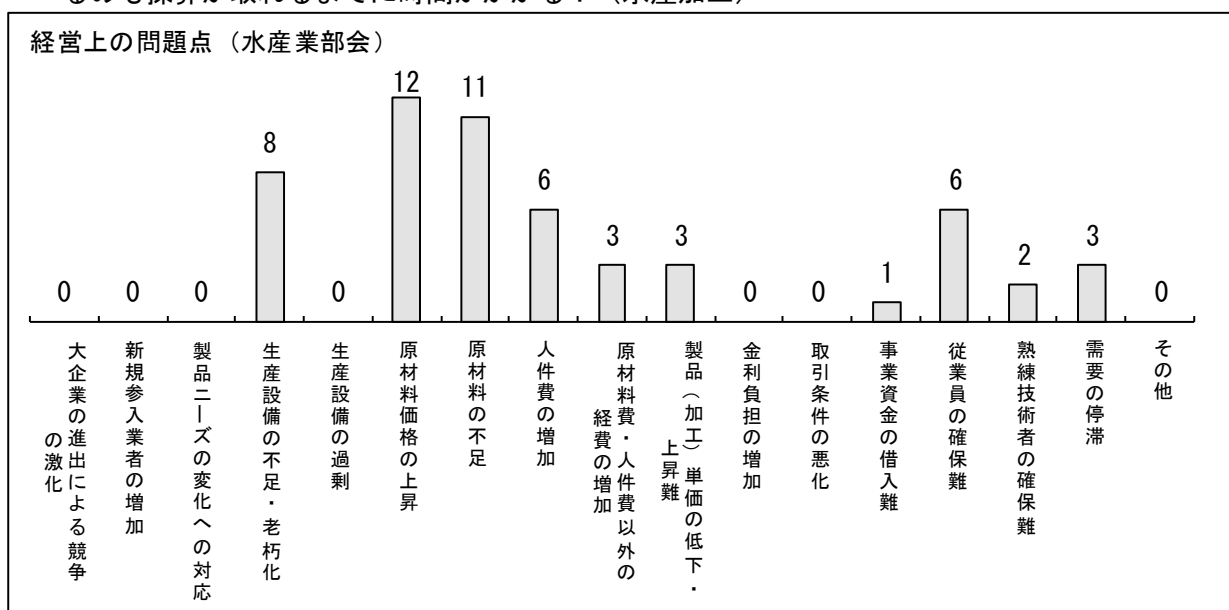


**【水産業部会】**〔業況判断DI値（前年同期比）▲46.7（前年DI値▲57.9、来期見通し▲60.0）〕

業況判断DI値（前年同期比）は11.2ポイントもの改善となりました。全体的にサケ、マスをはじめとした様々な魚種で漁獲量は減少しているものの魚価高により、売上高は上がっているとの事です。また、紋別港のカニの貿易船入港はあるものの、市外へ輸送されているとも聞かされていることから、依然としてカニ加工業者は非常に厳しい状況になっていくものと思われます。また、他の商材への移行をしている加工業者もありますが、採算が取れる様になるまでは未だ時間がかかるため、苦しい状況となっており、今期の採算DI値も▲71.4と大きな悪化を示しています。経営上の問題点としては「原材料単価の上昇」「原材料の不足」を訴える声が多くなっており、来期は、今期より更に悪化する厳しい見通しとなっています。

**《業界の問題点等》**

- ・ 原材料不足（水産加工）
- ・ 原材料高騰の為、違う商材に移行。人件費が上がり、それだけの利益が無い。（水産加工）
- ・ ホタテ、カニ等の原料高・販売安でなかなか固定費が取れない状況！他の原料加工に移行するのも採算が取れるまでに時間がかかる！（水産加工）

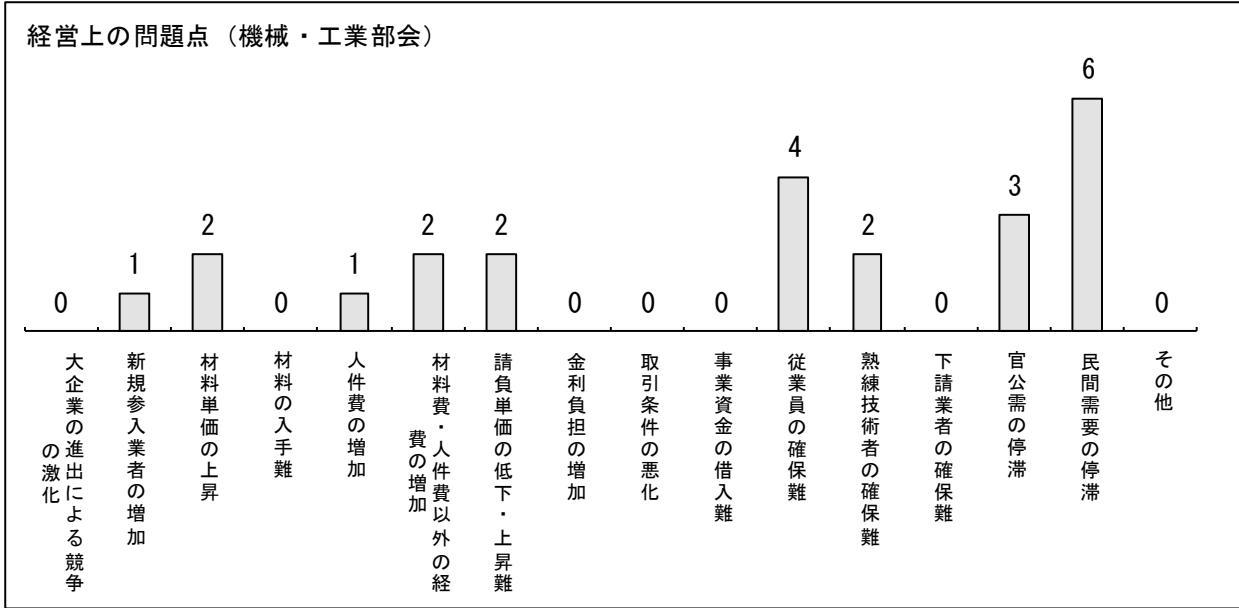


**【機械工業部会】**〔業況判断DI値（前年同期比）▲33.3（前年DI値▲30.8、来期見通し▲33.3）〕

業況判断DI値（前年同期比）は、2.5ポイント僅かに悪化となりました。建設業の業況悪化も影響し、整備や設備導入に係る需要が落ち込んでいることが大きく影響していると思われます。近年、パソコンやプリンターの普及による年賀状印刷等の発注が減少といった個人需要も減少してきております。来期業況見通しは今期と同ポイントとなっており、林業や建設機械のリース等を行っている業種では悪化の見通しながらも、トラックや自動車、水産業等の工場や除雪機等の整備等、メンテナンスで動きを見せる期間となるため、資金繰りのDI値も好転となっており、問題視していない業種もあるようです。経営上の問題点としては「民間需要の停滞」「従業員の確保難」を訴える声が多くなっており、

**《業界の問題点等》**

- ・ 品物を売って、早く客に届けたいのに、日通などの大手の運送会社が集荷に来ないなど、紋別はロジスティックに非常に不便。（機械販売）

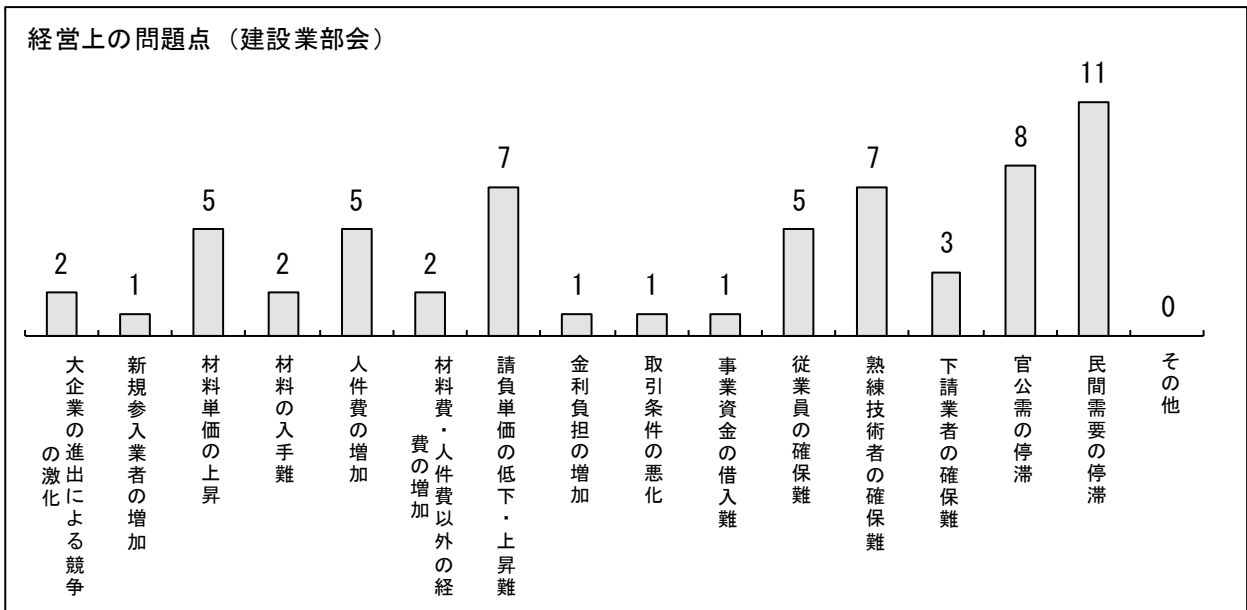


**【建設業部会】**〔業況判断DI値（前年同期比）▲11.8（前年DI値10.0、来期見通し▲64.7）〕

業況判断DI値（前年同期比）は前年比21.8ポイントと大きな悪化となりました。平成28年12月に稼働予定の住友林業によるバイオマス発電所の建設が大詰めを迎えてはいますが、市内の業者による工事が少ないことに加え、降雪の時期になっても年末まで雪が少なかったことから、除排雪の作業がほとんどなく、貴重な冬期間の収入が1月は皆無との声も寄せられております。次期はDI値が▲64.7と全業種で最も厳しい見通しとなっています。しかしながら、年明けからの猛吹雪や大雪により、除排雪が活発になってきていることから、やや上方修正されるものと考えています。経営上の問題点としては「民間需要の停滞」「官公需の停滞」を訴える声が多くなっております。

**《業界の問題点等》**

- ・暖冬の影響により12月除雪作業が皆無の為、12月の工事売上が全く無かったので、1月の収入がない。（建設）

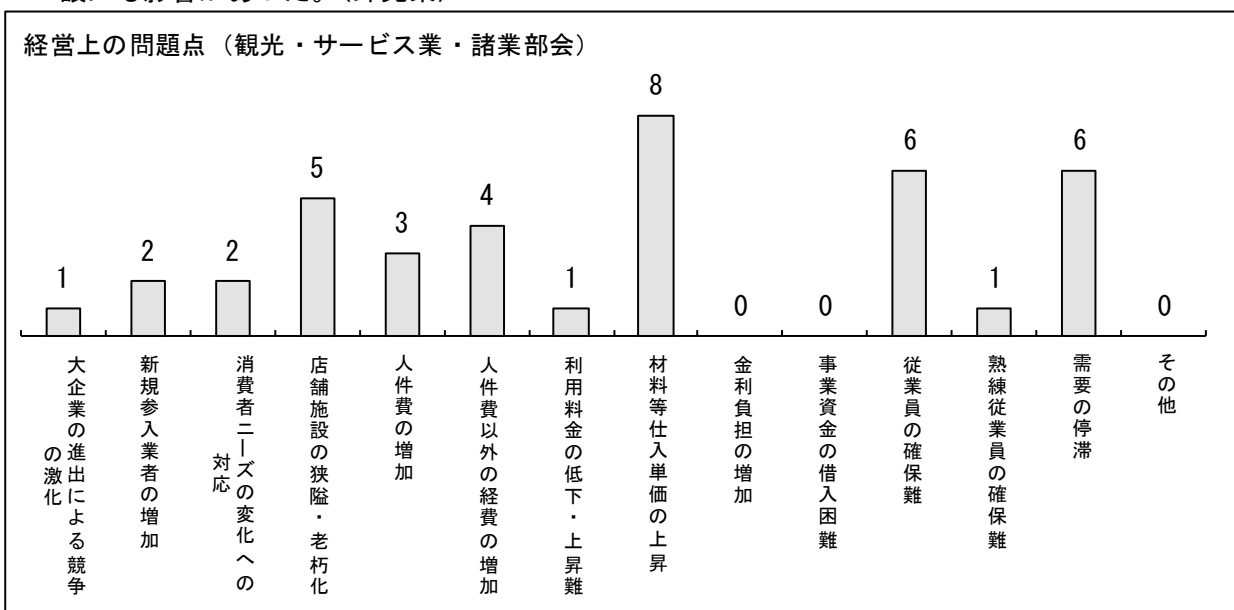


【観光・サービス業・諸業部会】 [業況判断DI値（前年同期比）▲20.0（前年DI値20.0、来期見通し▲53.3）]

業況判断DI値（前年同期比）は前年よりも40ポイントの悪化となり、広域病院や建設工事が一段落したバイオマス発電所の工事関係者が紋別から撤退したことにより、飲食や生活サービスに係る需要が減少したことや、人口減少や高齢化により常連客が飲食店へ出かける回数も減少している事も影響しているものと思われます。また、対人が主である観光サービス業、諸業で従業員の確保難は最重要課題であり、賃金を上げてもなかなか従業員が確保出来ず、売上に繋がらないとの声も寄せられております。来期は更に50ポイント超の悪化見通しとなっておりますが、冬季観光が本番を迎えるにあたり、観光客などの入り込み増加を期待していきたいところです。経営上の問題点としては、「材料等仕入単価の上昇」「従業員の確保難」「需要の停滞」などを心配する声が多くなっております。

《業界の問題点等》

- ・ 過剰な悪天候の情報（飲食業）
- ・ 頑張って諦めずに続けます。継続は好転への道標。（運送業）
- ・ 年末商戦において、カニ（特にズワイ）の仕入価格高騰により、売上数が半減。従って売上額にも影響があった。（卸売業）

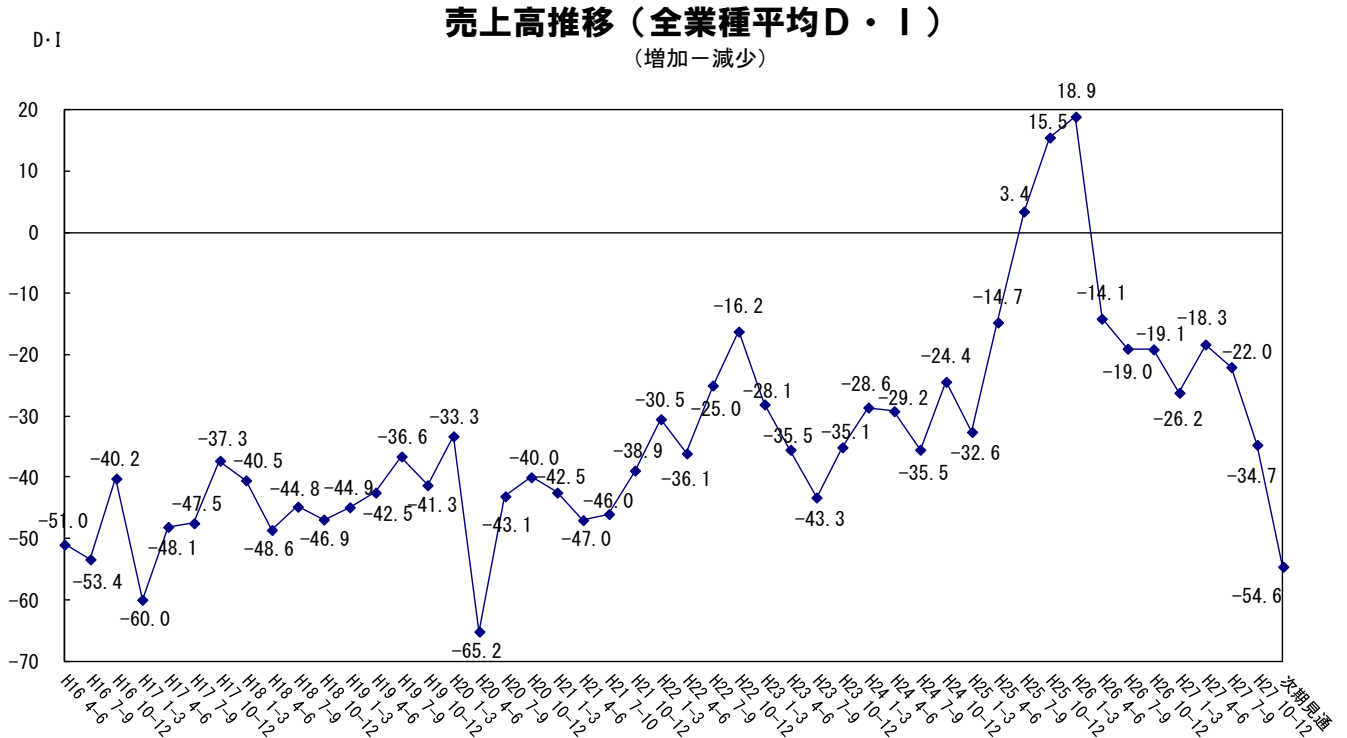


## 2. 今期の動向

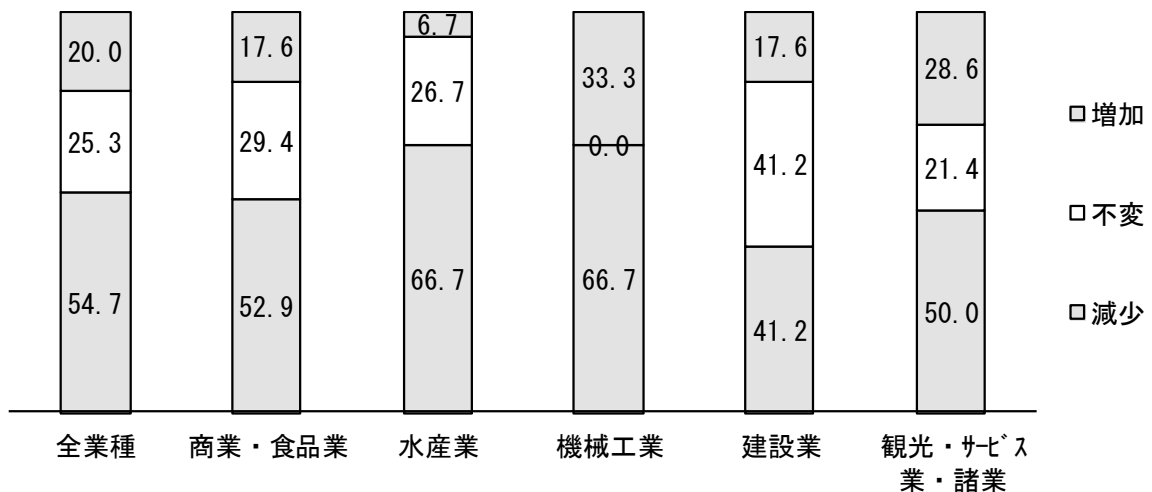
### (1) 今期の売上高・生産高

【前年同期比】（平成 26 年 10 月～12 月期の水準と比較した今期の売上高）

前年同期比



### 今期の売上高・生産高（前年同期比）



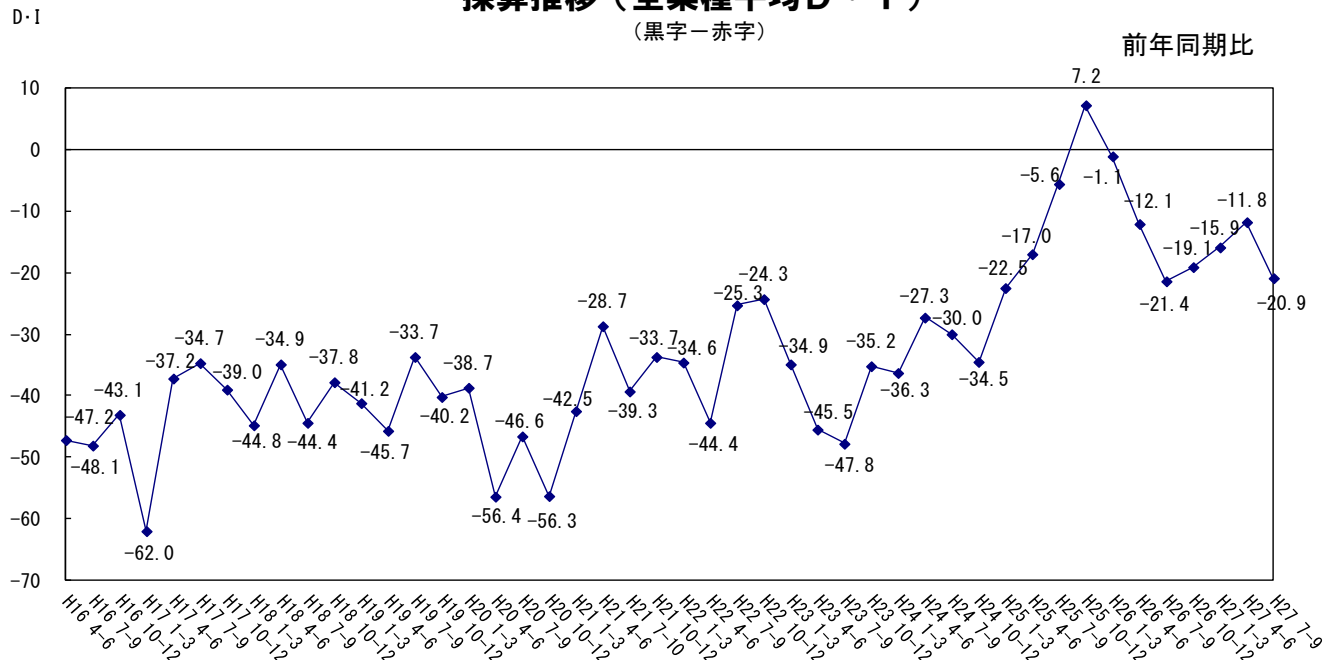
全業種平均で DI 値▲19.1〔前回調査時（平成 27 年 7～9 月期▲16.5）より 2.6 ポイント悪化〕  
機械工業が大きく改善。商業・食品業、建設業、観光・サービス業・諸業が悪化。

〔部会別 DI 値〕  
 商業・食品業〔前年▲5.6→▲35.3〕、水産業〔前年▲63.2→▲60.0〕  
 機械工業〔前年▲53.8→▲33.3〕、建設業〔前年 0.0→▲23.5〕  
 観光・サービス業・諸業〔前年 28.6→▲21.4〕

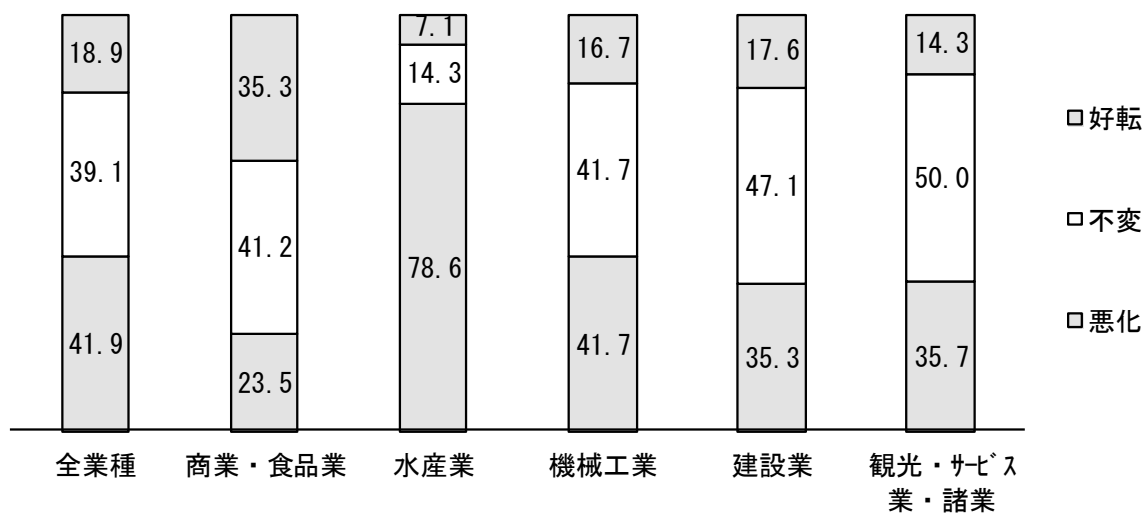
(2) 今期の採算

【前年同期比】（平成 26 年 10 月～12 月期の水準と比較した今期の採算水準）

採算推移（全業種平均 D・I）



今期の採算（前年同期比）



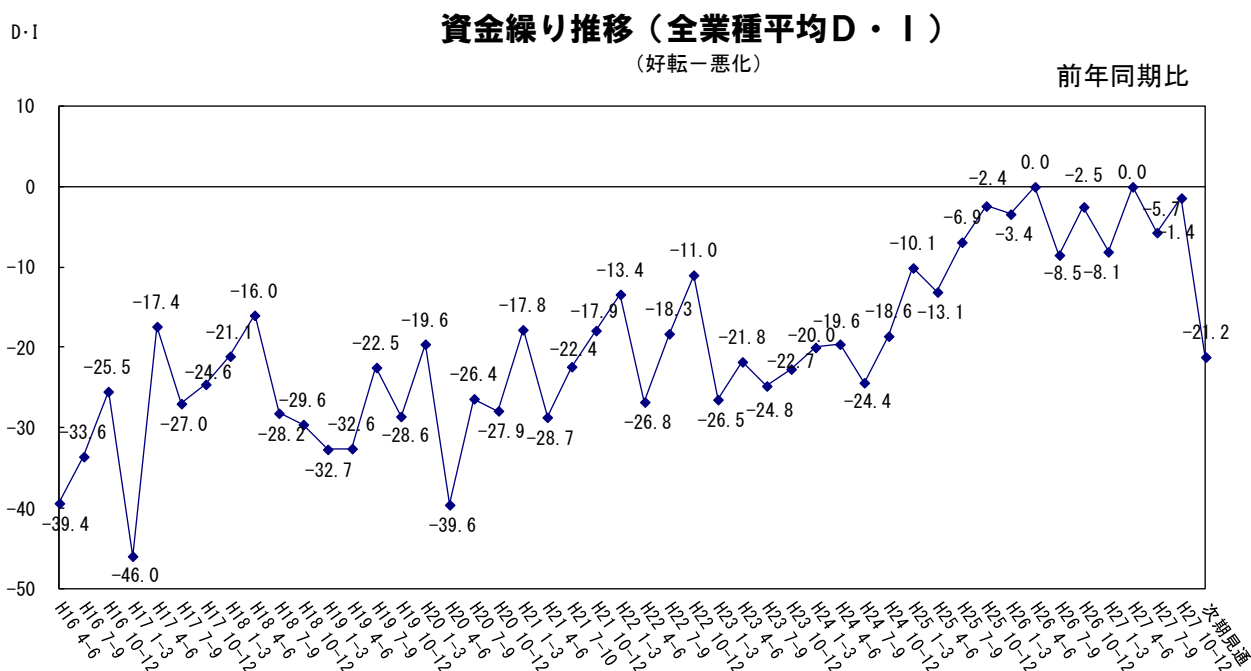
全業種平均でDI値▲23.0〔前回調査時（平成 27 年 7～9 月期▲20.9）より 2.1 ポイント悪化〕  
 商業・食品業、機械工業が大きく改善。水産業、観光・サービス業・諸業が大幅悪化。

〔部会別 DI 値〕 商業・食品業〔前年▲16.7→11.8〕、水産業〔前年▲42.1→▲71.4〕  
 機械工業〔前年▲46.2→▲25.0〕、建設業〔前年▲5.0→▲17.6〕  
 観光・サービス業・諸業〔前年 14.3→▲21.4〕

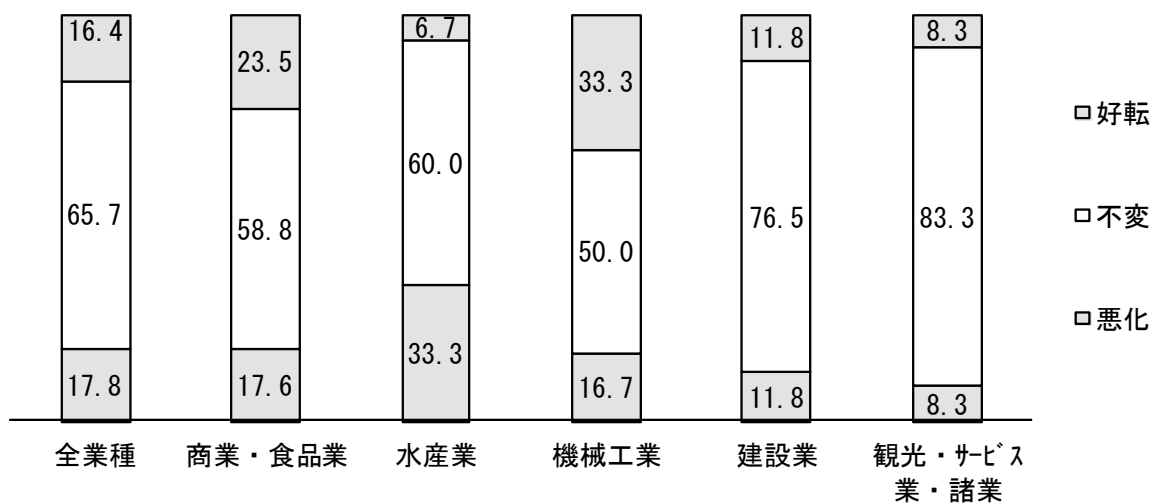


### (3) 今期の資金繰り

【前年同期比】（平成 26 年 10 月～12 月期の水準と比較した今期の資金繰り）



### 今期の資金繰り（前年同期比）



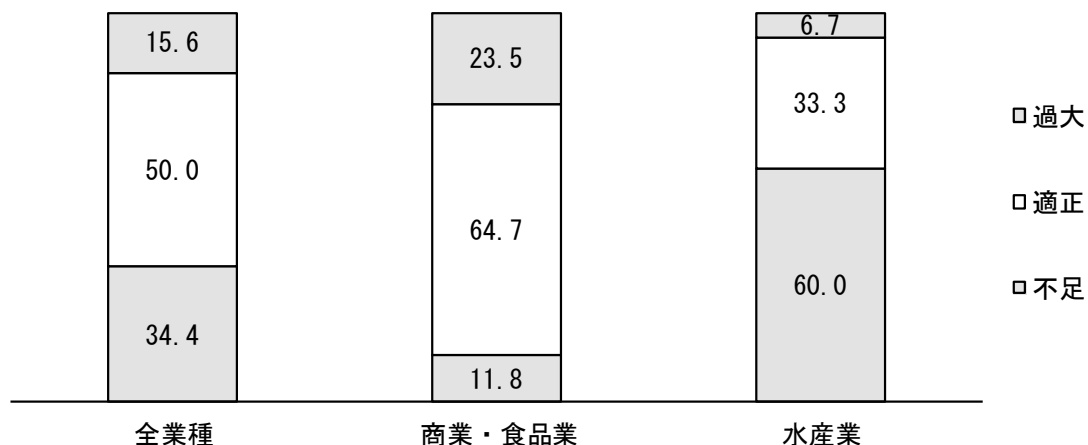
全業種平均でDI値▲1.4〔前回調査時（平成 27 年 7～9 月期▲5.7）より 4.3 ポイント改善〕  
商業・食品業、水産業がやや悪化。その他の業種も僅かに悪化。

〔部会別 DI 値〕 商業・食品業〔前年 0.0→5.9〕、水産業〔前年▲36.8→▲26.7〕  
機械工業〔前年 18.8→16.7〕、建設業〔前年 15.0→0.0〕  
観光・サービス業・諸業〔前年 7.1→0.0〕

#### (4) 今期の在庫水準

【前年同期比】（平成 26 年 10 月～12 月期の水準と比較した今期の在庫水準）

#### 今期の在庫水準（前年同期比）



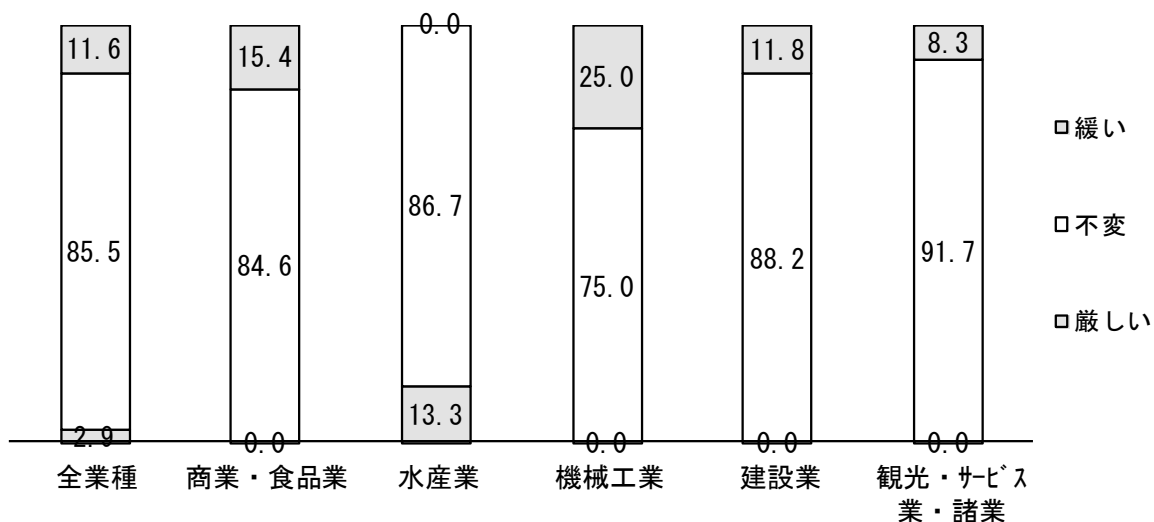
全業種平均で DI 値▲18.8〔前回調査時（平成 27 年 7～9 月期▲24.3）より 5.5 ポイント在庫不足〕

〔部会別 DI 値〕 商業・食品業〔前年 5.6→11.8〕、水産業〔前年▲36.8→▲53.3〕

#### (5) 今期の金融機関の貸出姿勢

【前年同期比】（平成 26 年 10 月～12 月期の水準と比較した今期の金融機関の貸出対応）

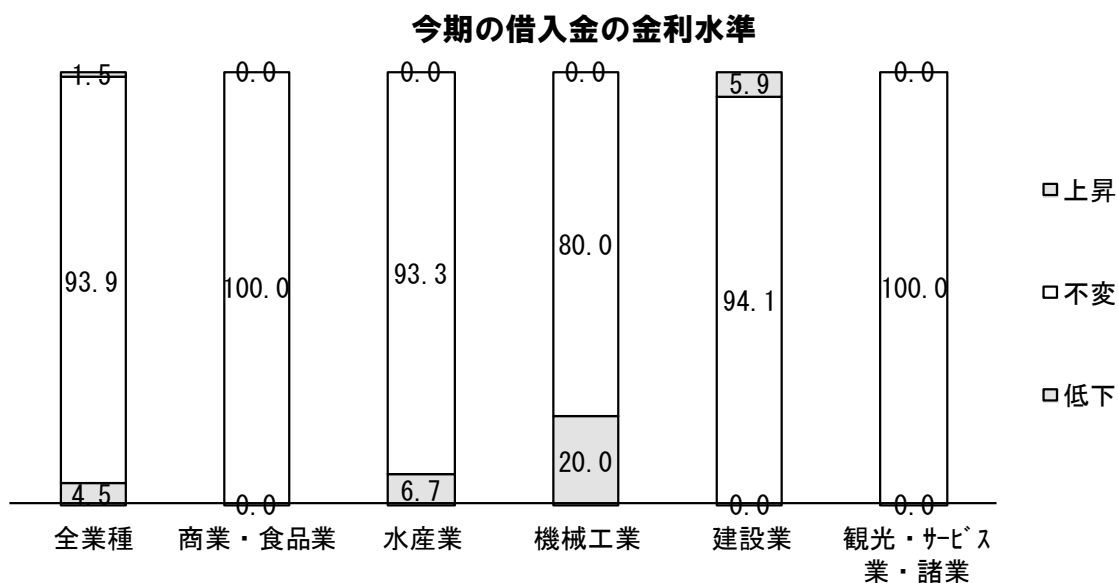
#### 今期の金融機関の貸出姿勢



全業種平均で 8.7 ポイント。商業食品業 15.4、水産業▲13.3、機械工業 25.0、建設業 11.8、観光・サービス業・諸業 8.3

## (6) 今期の借入金の金利水準

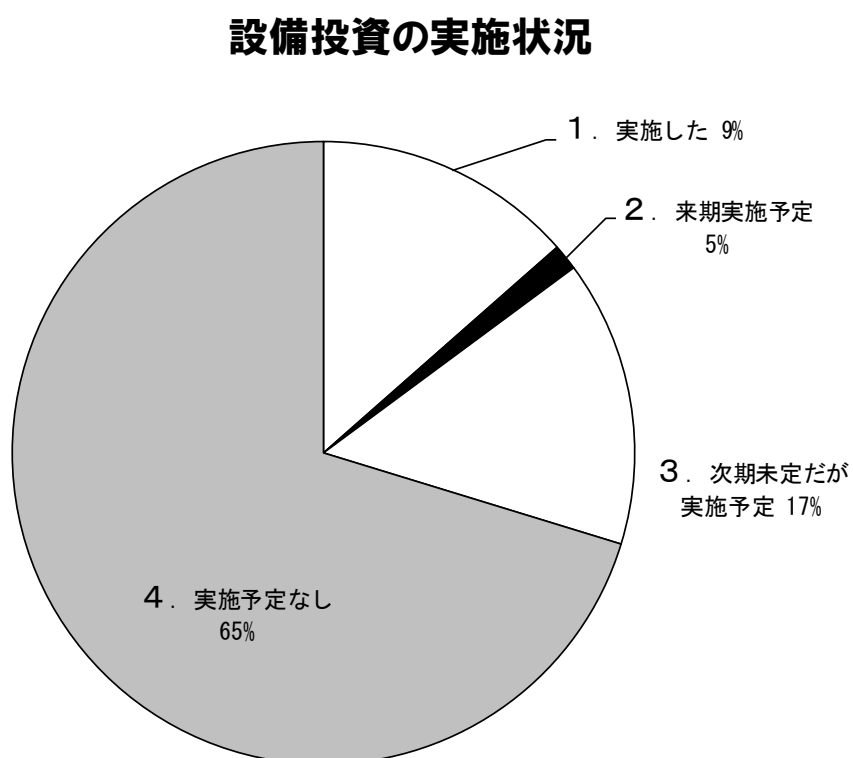
【前年同期比】（平成26年10月～12月期の水準と比較した今期の借入金の金利水準）



全業種平均で▲3.0。商業食品業 0.0、水産業▲6.7、機械工業▲20.0、建設業 5.9、観光・サービス業・諸業 0.0

## (7) 設備投資の実施状況

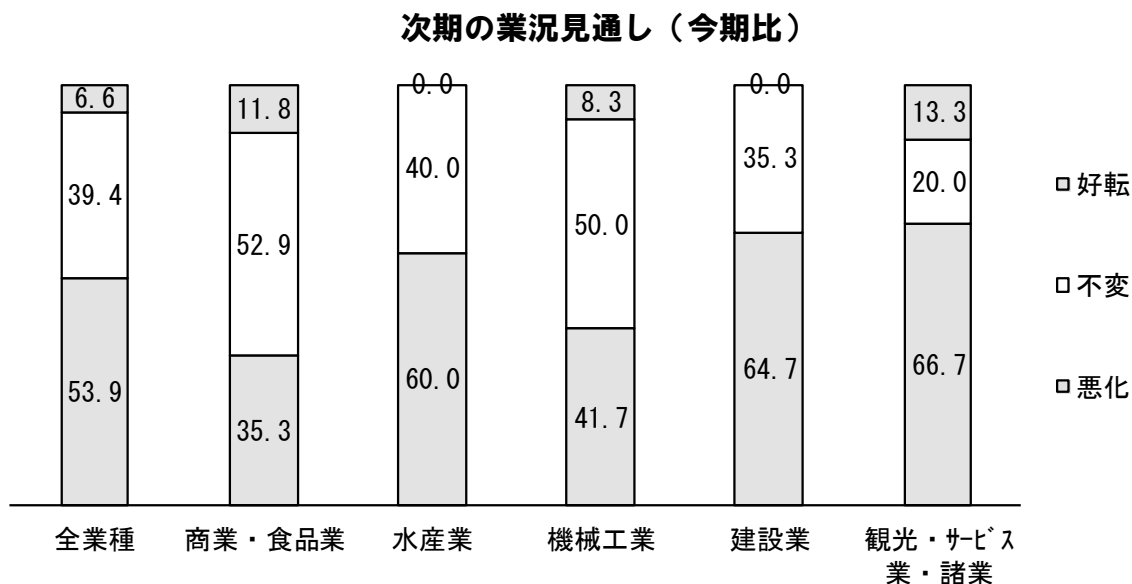
今期の店舗・社屋・工場等への設備投資実施状況について



### 3. 来期の見通し

#### (1) 来期の業況

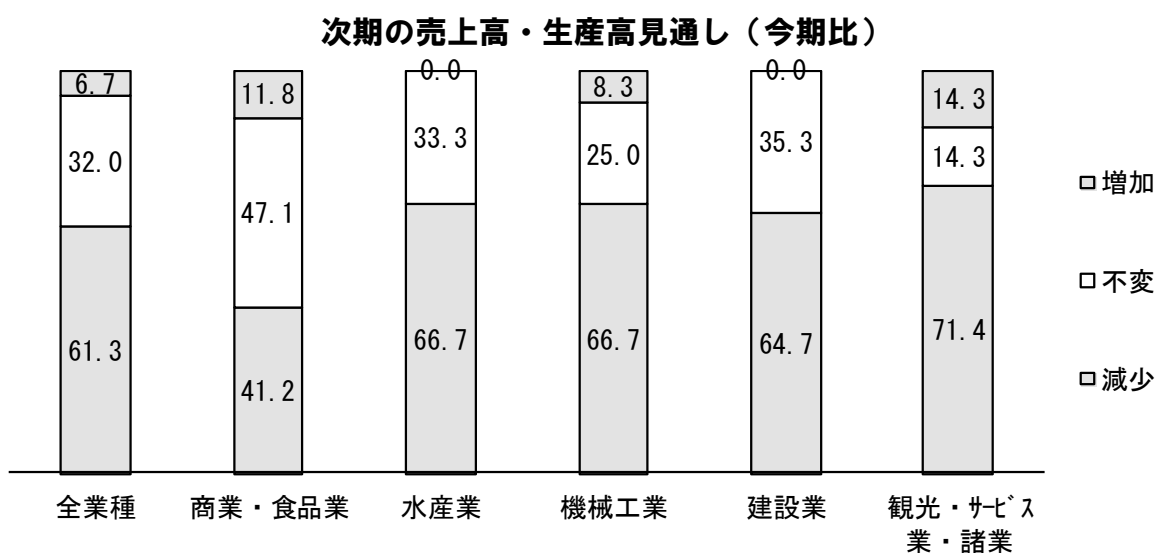
【今期比】（平成 27 年 10 月～12 月期の水準と比較した来期の業況見通し）



全業種平均 DI 値▲47.3 [今期の業況（前年同期比▲19.7）より 27.6 ポイント悪化の見通し]

#### (2) 来期の売上高・生産高

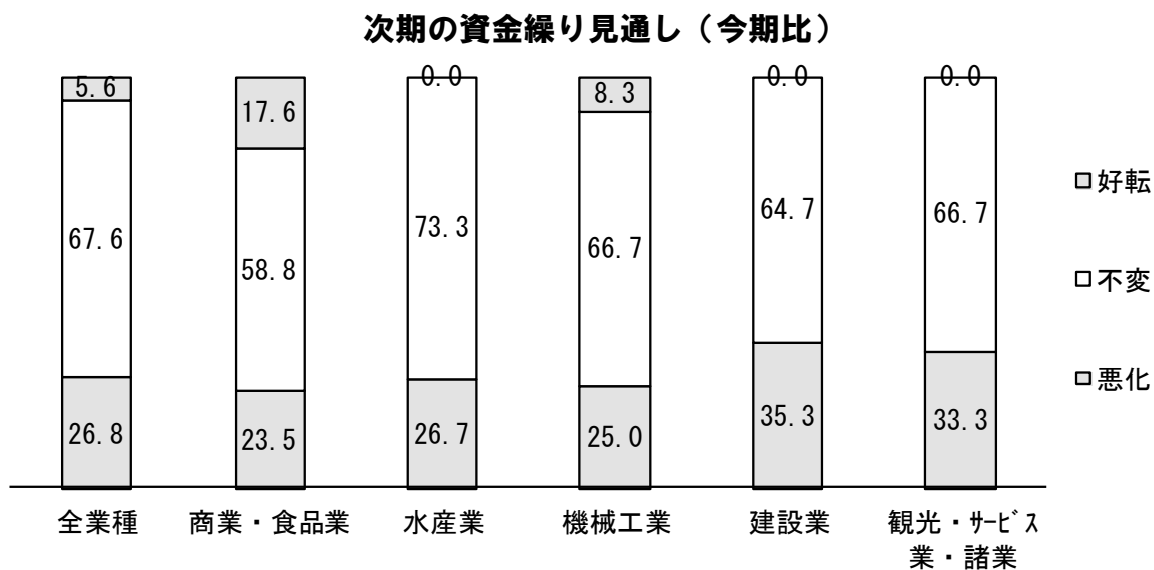
【今期比】（平成 27 年 10 月～12 月期の水準と比較した来期の売上高・生産高見通し）



全業種平均 DI 値▲54.6 [今期の売上高・生産高（前年同期比▲34.7）より 19.9 ポイント悪化の見通し]

### (3) 来期の資金繰り見通し

【今期比】（平成 27 年 10 月～12 月期の水準と比較した来期の資金繰り見通し）



全業種平均 DI 値 ▲21.2 [今期の資金繰り（前年同期比▲1.4）より 19.8 ポイント悪化の見通し]

## Ⅲ. 各 指 標

		全 体	商 業 食 品 業	水 産 業	機 械 工 業	建 設 業	観 光 サ ー ビ ス 業 ・ 諸 業
業況判断 D・I	今期実績	▲19.7	5.9	▲46.7	▲33.3	▲11.8	▲20.0
	来期見通し	▲47.3	▲23.5	▲60.0	▲33.3	▲64.7	▲53.3
売上 D・I	今期実績	▲34.7	▲35.3	▲60.0	▲33.3	▲23.5	▲21.4
	来期見通し	▲54.6	▲29.4	▲66.7	▲58.3	▲64.7	▲51.7
在庫 D・I	今期実績	▲18.8	11.8	▲53.3	—	—	—
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
採算 D・I	今期実績	▲23.0	11.8	▲71.4	▲25.0	▲17.6	▲21.4
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
資金繰り D・I	今期実績	▲1.4	5.9	▲26.7	16.7	0.0	0.0
	来期見通し	▲21.2	▲5.9	▲56.7	▲16.7	▲35.3	▲33.3
金融機関 貸出姿勢 D・I	今期実績	8.7	15.4	▲13.3	25.0	11.8	8.3
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
借入金 金利水準 D・I	今期実績	▲3.0	0.0	▲6.7	▲20.0	5.9	0.0
	来期見通し	—	—	—	—	—	—

※借入金金利水準 D・I 値のプラス値については、借入金利が上昇したと感じた回答が多い時にプラス値で表示されます。